



平成 29 年 4 月 6 日(木)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

4月号

出 発 ！！

校 長 佐々木 秀之

小学校の入学の日を誰よりも待っていた 86 名の 1 年生。「今年も！」と大いに張り切っている 415 名の上級生。そして、子供たちのためにと一丸となった 30 名の教職員。風光る今日、開進第四小学校の平成 29 年度が始まりました。

「一年の計は元旦に在り」と言われます。「学校生活の一年の計は、新学期の始まりに在り」ということができます。「すべての教育活動は開四に学ぶ子供たちのためにある」ことを常に念頭に置き、小学校と中学校の 9 年間の義務教育を通じて、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像「知性にあふれ 正しく判断できる人」「心豊かで 品格のある人」「健康で 行動力のある人」の実現を目指します。

そして、毎日の教育活動に関しては、以下の 4 つを教育活動の基準として、充実した教育活動を行うよう、努めてまいります。

4 つの教育活動基準 (SNCE)

- 子供たちに安全で安心できるものであるか (**Safety** 安全)
- 子供たちの「知・徳・体」をはぐくむものであるか (**Nurture** はぐくみ)
- 保護者の皆様が納得できるものであるか (**Consent** 納得)
- 最小限で最大の効果を生むものであるか (**Efficiency** 効果)

*

「初心忘るべからず」 誰でも耳にしたことがある世阿弥の言葉です。今では、「初めの志を忘れてはならない」と言う意味で使われていますが、世阿弥が意図とするところは、少し違いました。晩年 60 歳を過ぎた頃に書かれた『花鏡』の中で、まとまった考えを述べています。その中で、世阿弥は「第一に『ぜひ初心忘るべからず』、第二に『時々の初心忘るべからず』。第三に『老後の初心忘るべからず』」の、三つの「初心」について語っています。「初心忘るべからず」とは、それまで経験したことがないことに対して、自分の未熟さを受け入れながら、その新しい事態に挑戦していく心構え、その姿を言っています。

私たち教職員も開四小での経験年数は様々です。初心の真面目さを忘れることなく、やっていることに満足せず、物事の完成度を高める為には、大切な心構えを説いた言葉ではないかと思えます。

*

どんなに世の中が変わり社会が変化してもよりよく生きたいという子供たちの願いは変わりません。そして、その願いを実現させるのが教育であり学校の力です。社会の変化を見据え、一人一人が個人として自立し、社会の一員としてそれぞれの分野でたくましく生き抜いていくため、「真の生きる力」を身に付けさせるための教育を教職員の英知を結集して推進してまいります。

どうぞ、ご理解・ご協力をお願いいたします。